

フェミニスト作家の先駆・吉屋信子が刊行した個人雑誌、全号の復刻版！

黒薔薇

くろしよび

一九二五年二月〜八月

【新選】



吉屋信子パンフレット

黒薔薇

No. 6

行社社開文

少女小説「花物語」の著者として若い女性に圧倒的な支持を得ていた吉屋信子が、作家的地位を不動のものとした時代にも、みずから創刊した、女性主宰としては数少ない個人雑誌。生涯の伴侶・門馬千代に出会い、自らのセクシュアリティに確信を持ち、日本の父権社会への懐疑を決定的にしていたこのとき、女性の同性愛を正面から論じた。

全集にも収録されていない長編や短編・随想を載せた本誌は、まさに吉屋信子の真骨頂を示す最重要資料である。

近代女性史・文学史・思想史研究の貴重文献として、また吉屋信子という女性を通して現在の女性問題を見つめるすべての女性に必見の書として復刻刊行するものである。

不二出版

全二巻

定価 本体二〇、〇〇〇円＋税

『01年10月刊』

解説 上 笹一郎 / 推薦 駒尺喜美

真性フェミニストの登場 駒尺喜美

『黒薔薇』は一九二五(大正二四)年に出版された。大正二四年といえは私の生まれた年である。この時代にこれだけの雑誌『吉屋信子』はパンフレットと言っている)を出した吉屋信子の勇氣に衝撃を受けた。

吉屋信子という人は大衆に向かつて小説を書いたので、文学史などでは低く評価されている、というより無視されている。が、しっかりした女性解放への志と性差別理論を作り上げていた。

『黒薔薇』はそうした吉屋信子の本音とも言うべきものがほとぼしり出ている。当時の女性観・女性蔑視・女子教育の実態などがえぐり出されているが、とりわけ男女間の「恋愛」というものが男の支配欲・所有欲・征服欲にまみれていること、すなわち「変態」と言い切っている。

そうした認識に立つて同性愛を描き、それをむしろ「自然」なものとしている。同性愛をセクシュアリティの文脈で考えるだけでなく、魂の結びつき、男女分断差別社会への当然の反逆として主張しているのである。

はつきり言わせてもらおう。吉屋信子ほどのフェミニストはいない。吉屋信子は「真性フェミニスト」である。真性フェミニストとは、性差別を最大の差別問題とし、最大の人権問題と考える人のことである。「女の友情」「女の階級」「良人の貞操」これらは吉屋信子の小説の題名である。そのタイトルを並べただけでも吉屋信子の志のありどころがわかるであろう。

『黒薔薇』はその志の高さの証明であり、吉屋信子が真性フェミニズムの先駆者であったことを明らかにしている。

(こ)まじやく・きみ ライフアナチスト 元法政大学教授



吉屋信子年譜

- 一八九六年
 - ・ 一月、新潟県に出生
 - 一九〇二年
 - ・ 父が足尾鉾毒問題で紛糾している栃木県下都賀の郡長となる。信子は父を訪問した田中正造に頭をなでられた記憶がある
 - 一九〇八年
 - ・ 栃木高等女学校入学。この頃から「少女世界」などに投稿を始める
 - 一九一二年
 - ・ 栃木高等女学校卒業。進学は断念。
 - 一九一五年
 - ・ 東京に移住、兄と下宿
 - 一九一六年
 - ・ 『良友』『幼年世界』に童話を寄稿
 - 一九一七年
 - ・ 『青鞥』に詩・小説を寄稿
 - ・ 『少女画報』に『花物語』の連載を開始
 - ・ 初めての著書『赤い夢』出版
 - 一九一九年
 - ・ 『大阪朝日新聞』長編懸賞小説「地の果てまで」が等当選
 - 一九二三年
 - ・ 山高しげりの紹介で門馬千代に出会う
 - 一九二五年
 - ・ 個人雑誌『黒薔薇』を創刊
 - 一九二六年
 - ・ 下落合に家を建築、千代と住む
 - 一九二八年
 - ・ 千代とともに渡欧
 - 一九三三年
 - ・ 『婦人倶楽部』に「女の友情」連載
 - ・ 『東京日々』『大阪毎日』に「良人の貞操」を連載
 - 一九三八年
 - ・ 『主婦之友』特派員、情報局派遣従軍文士海軍班で「満州」連国境、漢口へ
 - 一九四四年
 - ・ 鎌倉に疎開
 - 一九四五年
 - ・ 牛込砂土原町の留守宅東京大空襲で焼失
 - 一九五一年
 - ・ 『毎日新聞』に「安宅家の人々」連載
 - 一九六六年
 - ・ 『朝日新聞』に「徳川の夫人たち」連載
 - 一九七〇年
 - ・ 『女人平家』執筆開始
 - 一九七三年
 - ・ 七月、没。七七歳
- (吉屋信子全集)12朝日新聞社より)

〔本文組見本〕



若き魂の巢立ち

— 學窓を出で給ふ姉妹にさよ—

評論とか感想とかは私にはあまりに不向きなお仕事で少し(?)理智の足りない私のことゆゑ筋路立つたことは言へない元來の舌足らず……たゞ簡単に日頃思ふことども一寸述べさせて戴く—

文壇と一口に言へば、もうそれは頭から男の方で息づまる氣持がする、いつぞや發行されると聞いた現代劇大系の中にも、又最近新潮社で出す現代小説大系にも、女性のお名前は見受けられない、そも〜我國は神代の時代より、おそれ多くも天照大神の古事は申すもおろか、女ならでは明けぬとはけつして文壇國だけは例外—アストンの日本文學史に鎌倉時代を論じて、

In comparison with Heian Period, the contribution by women to the literature of this time are insignificant.

陰影の世界へうつ
成長してゆく少女
なる見知らぬ世界
何處から來、何處へ
い揺籃を戀ひ慕ふ
日のまどろみのう

黒薔薇

全二巻

ISBN4-8350-1435-9
「復刻版刊行概要」

◎体裁——四六判／上製／総六三〇ページ
全八号を巻に合本

◎付録——解説(上 笙二郎)・総目次

◎推薦——駒尺喜美(ライフアーティスト 元法政大学教授)

◎定価——本体二〇、〇〇〇円＋税

◎関連図書のご案内

せいとう 青鞥の女

こうきち 尾竹紅吉伝

渡邊澄子 著

紅吉 尾竹二枝は女性解放雑誌『青鞥』を象徴する一人である。

新進の女性画家として自ら得た賞金で『番紅花』を創刊、陶芸家・

富本憲吉との結婚を経て性差別の呪縛とたたかいながら、多くの

女性の後進を支え励まし、近代日本女性史を身体ごと生き抜いた。

名のみ高かった紅吉の初めての本格的評伝！

四六判・上製 三八〇ページ「01年3月刊」

本体価格 三、五〇〇円 ISBN4-8350-3874-6



性の歴史学

公娼制度・墮胎罪体制から
売春防止法・優生保護法体制へ

藤目ゆき 著

近現代日本女性史を性と生殖の視点から

照射し直した意欲作。内外資料を駆使して

底辺の女性から大日本帝国のフェミニスト

たちまで、私たちの歩みを鋭く描き出す。

これまでの女性史の常識を問い直す著。

A5判 並製 四四八ページ「97年3月刊」

本体価格 四、八〇〇円 ISBN4-938303-18-3

2001.9

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12

電話(03)3812-4433

フアクシミリ(03)3812-4464

振替 00160-2-94084

●表示価格は、全て税別です。